



石倉橋下の釣人 Fishing under the Ishikura bridge ...

© photo by Isao Yoshida

本年度の方針

第四十八代会長 吉島 一 良



テーマ 「今こそ奉仕の時！」～50周年に向けて活力あるクラブ・品位あるクラブを維持しよう～

飯能ロータリークラブ第48代会長として一言ご挨拶を申し上げます。

飯能ロータリークラブは昭和39年に創立され、3年後には50周年を迎えることとなりました。今年になって正会員にチャーターメンバーはいなくなりましたが、歴代の会長・幹事が中心となって築かれた伝統は今も生き続けております。私も飯能らしさを引き継ぐべく、皆様とともに1年間頑張っていきたいと考えております。

2011 2012年度国際ロータリー会長カルヤン・バネルジー氏(インド出身)のテーマは「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために」であり、「家族」「継続」「変化」の3点を強調事項として掲げました。立原ガバナー(川越RC)は地区のテーマを

『Smart Rotaryを探して』～継続できるロータリークラブとは～

『ガンバレ！日本のロータリークラブ』と致しました。

さて、今年の3月11日に大震災が発生するとともに原子力発電所の事故も重なり、被災地ばかりでなく日本全体が苦境に立たされています。改めて東日本大震災で亡くなられた方々への冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

このような状況のなか、飯能ロータリークラブにおいては、新年度は50周年に向けて組織を見直すとともに、50周年をともに迎えようという合言葉のもと、各会員のベクトルを一致させていきたいと考えております。

1. 50周年に向けて60人体制に戻す。

大変厳しい現状ではありますが、奉仕の機会として知り合いを広めるため、地区の目標でもあります「+1」を確実に達成し、50周年では60人で臨みたいと考えております。

2. 職業の品位を高める。

正会員にチャーターメンバーがいなくなった今、綱領を改めて見直すときでもあります。事業および専門職務の道徳的基準を高め、その業務を品位あらしめることを目指したいと考えており、そのための例会も開催します。

3. 職業奉仕を通じて、奉仕を実践し奉仕の輪を広める。

我々企業に携わるものは、日々の仕事を通じて奉仕を実践し奉仕の輪を広めることが大事かと思えます。年に数回の社会奉仕も大事ですが、ひとりひとりの職業を通しての奉仕こそロータリーの原点でもあります。

4. 国際交流に努める。

米山留学生はロータリーの花的存在でもあり、50周年に向けて受け入れに努力します。

以上の4点を本年度の強調事項とし、立原ガバナーの言われるように『明るく！楽しく！美しく！』を心情として1年間過ごすとともに、次年度へつなげていければと考えています。会員皆様の協力を重ねてお願い申し上げます。

任期を終了して

第四十八代会長 吉島 一 良



2011年7月6日(水)暑い日だった。私の年度の第1回目の例会(2446例会)が開催された。国歌が遠くに聞こえ、会員の眼が私に集中しているのが感じられ、緊張したがどうにか無事挨拶を終えた。

2011・2012年度国際ロータリー会長カルヤン・パネルジー氏(インド出身)のテーマは「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために」であり、地区の立原ガバナー(川越RC)のテーマは「Smart Rotaryを探して」~継続できるロータリークラブとは~+「ガンバレ!日本のロータリークラブ」であった。私の年度のテーマは、国際や地区のテーマにとらわれず、「今こそ奉仕の時!」~50周年に向けて活力あるクラブ・品位あるクラブを維持しよう~とした。

また、以下の4項目を重点項目とした。

1. 50周年に向けて60人体制に戻す。
2. 職業の品位を高める。
3. 職業奉仕を通じて、奉仕を実践し奉仕の和を広める。
4. 国際交流に努める。(米山記念奨学生の受け入れに努力する。)

結果として、1番目の会員増強はマイナス1となってしまったが、他の3項目はおおむね実現できたと思っている。特に駿河台大学院生のリュウ・ユウヒさんを米山記念奨学生として受け入れたことは、50周年に向けてよいステップになったのではないだろうか。

あれから一年たったこの6月をもって、私の会長の任期を終えた。振り返ってみると、当初エレクトの段階では、幹事・SAAとのベクトルを一致させることに、多くの時間を費やした。どうにか無事終えたのも、この二人のお陰と感謝している。

特に間違幹事には、議事次第や議事録の度重なる書き直し、事務局との密な連絡、その他無理なお願いもした。不平・不満はあっただろうが、一言も文句を言わなかった。そのことが今日を迎えられた大きな理由ではなかったかと思っている。

クラブの事業も、地区の事業も結構あった。地区はなるべく出席するよう努力した。土曜日が多く、助かった。どうにか大きな問題も無く事業を終わらせることができたのは、委員長・パスト会長の協力やアドバイスがあったからと確信している。特に4月のGSEのときは、急遽ホームステイ先をお願いしたり、オーストラリアからの看護師を職場見学に連れて行かなければならず、医師会会長の紹介を受けたり、大学の後輩に通訳を頼んだりして動いた結果、喜んで帰国した。第3グループを離れるときは、GSEメンバー全員が飯能の例会に集まり、思いがけず盛り上がった例会となった。

例会といえば、市川プログラム委員長には飯能市内を中心として、多くの卓話の講師を招いてもらった。メンバーが講師の例会もあり、会員同士おおいに勉強になった。

親睦活動委員会には多くの行事があるにもかかわらず、委員長を筆頭にして6月の旅行まで、全力で1年間突っ走ってもらった感がある。東北旅行には家族も含め38人も参加し、出席者には良い思い出となったのではないだろうか。

広報関係では『ロータリーの友』に飯能ロータリーの記事が、例年になく多く取り上げられた。8月には「震災被災者に対するお見舞金」、12月には加藤パスト会長の「私の家族」、4月には駿河台大学の留学生による「日本語スピーチコンテスト」、5月には「バナー紹介」、6月には中里パスト会長の「この人・この仕事」が記載された。

他の委員会のことも書きたいことがあるが、後に続く「年次報告」を参照していただきたい。

この6月になって、「50周年」の実行委員長を中里パスト会長に快く引き受けていただいた。これは、私にとって1年間努力したこと、また目標とした老壮青の調和が実現したことの結果でもあると思っている。

最後に全会員ならびに事務局に感謝を申し上げ、退任の挨拶と致します。